



不可能に挑戦、 唯一無二のプリーツ技術を世界へ

オザキプリーツ株式会社 取締役社長 尾崎 義行氏
取締役専務兼営業部長 尾崎 淳氏

プリーツに魅せられ 独自の技術を開発

スカートなどの装飾に使われるプリーツ。立体感や華やかさを生み出す定番デザインとして、さまざまな衣服に活用されています。そうしたプリーツにおいて独自の技術を開発し、あらゆる素材での加工を可能にしたのが、福岡市南区野間のオザキプリーツ株式会社です。

創業者である取締役社長の尾崎義行さんは、15歳の頃に生まれ故郷の鳥取から福岡へと移り住み、ネーム刺繍の会社を手伝うことになりました。繊維業界のイロハもわからないまま職人として働く中で、プリーツに出会っ

たそうです。「当時はスラックスやセーラー服のスカートなどを中心にプリーツの加工に携わっていたのですが、昭和40年代に入り婦人用の既成服が流行ったことから、たくさんのニーズが生まれました」と振り返ります。当時はひとつひとつが手作業。プリーツの線を1本ずつ仕付け糸で縫い、アイロンで型をつけ、折り目の間に金属製の板を挟み込み窯で蒸して加工するというハードな仕事。「最初は好きになれませんでした」と尾崎さん。

しかし絵を描いたり、詩をつくったりと、ものづくりが好きだったことから、尾崎さんはプリーツの世界に魅せられていきます。そして1979年、プ

リーツ加工をメインに独立。以降、プリーツ製品の企画から縫製までを一貫して行い競合と差別化を進めました。

一方、プリーツ加工の代表は制服などに使われるウールのほか、ポリエステルといった化学繊維。これらの衣類は通気性が悪く、夏場にはプリーツに関する仕事が縮小していたそうです。そこで不可能だと言われていた、綿や麻をはじめとした天然素材のプリーツ加工に挑みました。「繊維業界の大手メーカーの技術などを参考に生み出したのが『MAX PLEATS』という特許技術です。これによってどんな素材でもプリーツ加工ができるようになり、デザインの選択肢が広がりました」と

【プロフィール】

尾崎 義行氏
鳥取県生まれ。15歳の時に福岡へと移り住み、刺繍店に勤務。以来、職人として働き、1979年に独立。1983年に法人化。趣味は読書。

尾崎 淳氏
福岡市生まれ。2007年にオザキプリーツに入社。2021年9月から現職。趣味の音楽活動のために週に一度はスタジオで練習を重ねている。



1



2



3



4

- 1 企画からデザイン、縫製まですべてに携わるのがオザキプリーツの特徴。既成服以外に、オーダーメイドの衣類などを一点一点製作
- 2 天然素材にプリーツ加工ができるからこそ実現した「KUROKI」デニムとのコラボ商品。クラウドファンディングでも好評を博している
- 3 手作業で行うプリーツ加工は、型紙の間に布を挟んで折り込んでいく。機械加工と比べ、自由度の高いプリーツ加工が可能だという
- 4 プリーツだけのサンプルではなく、オリジナルの製品の形にして提案していくのがオザキプリーツのスタイル

尾崎さん。加えて天然素材と化学繊維の交織とプリーツを組み合わせた『Pli ORIORE(プリ オリオレ)』という特許技術の開発にも成功。この独自の技術でつくられた製品は、大手アパレルメーカーに採用されるなど、繊維業界で大きな存在感を見せています。

オリジナルブランドをインターネットで展開

2007年には尾崎さんの息子で、取締役専務を務める淳さんが入社。2010年ごろからはOEMで取り組んでいたプリーツ加工や委託製造だけではなく、オリジナルブランド『O'sP's(オーズピース)』を立ち上げるなど精力的に活動しています。淳さんは「当社のブランドは百貨店の催事などで人気を集めました。在庫を抱えるリスクや人的リソースといった課題もあり、3年前からはECを主戦場にしていきます。汎用性の高い既成服も取り扱いつつ、服の廃棄問題や自分たちのものづくりに対する姿勢を貫くためオーダーメイドの洋服も販売しています。今春には自社のECを立ち上げ、よりバラエティ

に富んだ製品を届けていきたいですね」と意気込みます。

さらに天然素材のプリーツ加工という強みを生かして、メイドインジャパンのKUROKIデニムとコラボレーション。クラウドファンディングを活用し、2021年に好評を博した『くつろぎデニム』に続き、2022年1月には『ウェーブデニム』の先行予約販売を実施するなど、新たな挑戦を続けています。

「じつはプリーツは古代エジプトの壁画に描かれているほど古くから親しまれてきたものです。だからこそ私たちは“プリーツは古代からの贈りもの、そして女性の美を創造する永遠のテーマ”をコンセプトに、常に自分たちへプリーツとは何か?を問いかけながら商品開発を続けています」。BtoBの取引が売上の9割を占めているというオザキプリーツですが、今後はECを軸にD2C領域の販路拡大を進めていきます。

提案力を武器に世界へとチャレンジ

2021年には事務所兼工場を福岡市中央区から福岡市南区へと移転し機械化を進めるなど、攻勢を続けるオザ

キプリーツ。以前は全国に200社ほどあったプリーツ企業も現在では40社を切るなど、市場が縮小する中でも異彩を放ちます。

「私たちは提案力と、それを支える技術があったからこそ生き残ってこれたのだと思います。ファンを一人ひとり獲得しながら、人と人とのつながりを大切にするとともに、提案力と技術力を生かして海外進出にも積極的にチャレンジしていきたい」と淳さん。

また尾崎さんも「コロナ禍だからと言い訳していても前に進めません。私たちのプリーツ技術も諦めずに意志を貫いてきたからこそ生み出したもの。磨いてきた武器を手に、あとは打って出ていください」と自信をのぞかせます。

取材日：1月7日



オザキプリーツ株式会社

〒815-0041 福岡市南区野間3-5-19
TEL.092-555-7744
<https://www.ozaki-pleat.com/>